

二〇一九年一月四日

紋付の父の発声屠蘇祝ふ
薄氷の虜となりしあぶくかな
高らかに一本締めや初相場
舞ふ巫女の払ふ剣に淑気あり
初東風にあひ打ち合へる祈願絵馬
寒晴にグランドゴルフ音高し

二〇一九年一月三日

初春や庭に鳩来て雀来て
幸あれと眼を射るほどの初日かな
お辞儀して鸚鵡返しの御慶かな
鍋底の焦げを磨きぬ初厨

二〇一九年一月二日

初座敷磨き上げたる床柱
屠蘇一献妻に感謝のダイヤ婚
遠近に打つ音がへ除夜の鐘
健康と大書し祈る初日記

二〇一九年一月一日

病む夫の好みに合はせ節料理
平凡がいちばんよろし去年今年
初空や眉山に残る一つ星
墨香る長寿二文字の筆始め
去年今年千転すなる一句あり

菜々

さつき

宏虎

ぼんこ

たか子

満天

菜々

明日香

ぼんこ

なつき

菜々

宏虎

はく子

かかし

うつき

たか子

素秀

愛正

うつき

二〇一八年十二月三十一日

年送る干支の色紙を入れ替へて
刃物研ぎ終へて完了年用意
家中にお節の匂ふ大晦日
身に入むや昨夜見舞ひしに天国へ

二〇一八年十二月三〇日

鰐口の紐も取り替へ年用意

大晦日退院かなはぬ人見舞ふ

二〇一八年十二月二十九日

ベランダの冬日は杜へ移りけり

寒オリオン仰ぎぬ旅の機窓より

来る子等にひと白多く餅をつく

年暮るるブルーシートの屋根のまま

やよい

三刀

満天

はく子

ぼんこ

はく子

そうけい

智恵子

明日香

せいじ

毎日句会みのる選・二〇一九年一月六日